



「サービスも手掛り」と驚いてい

たという。事業者は、「物流と

なれば、消費者に

大手にとって18万円

残るのは、その大手

というの、体のい

の名前だけでなく、

物流業界全体に対す

る不信感に

なってしまうわ

ないか。「人手

不足による

引越難民」と

いう言葉が連

日各メディア

に流れる中、

「吹っ掛けて

物流100年企業

第1回

顧客に恵まれ122年

拠点拡大し強み発揮

小野運送店（小野正彦社長、東京都品川区）の創業は1896年。創業者である小野為吉氏は馬20頭を擁して馬力運送業を起した。品川も戦後にできて『創業70数年』という「馬力屋」に成長し、由緒ある品川神社の氏子総代は代々小野家が引き継いでいるという。小野正彦社長は7代目となる。



小野運送店 小野正彦社長

「創業当時の馬車から、トラックにうまく切り替えることのできたのが大きかった。後は競争の激化で、他社を見ても戦後になって『創業70数年』という会社が多い」という小野社長。「荷主の日本ペイントさん

らっている」と笑う。「日本ペイントさんが千葉に進出する」と聞くと、ウチもついて行って営業所を出し、拠点を増やしたと説明する。「塗料関係の輸送だけで、はたして12年目。ドライバーから

も進出し、いまでは売り上げの7分の1で力を発揮しに成長。これは塗料を運んだ帰り荷を探したことがきっかけだった」という。スタートし、関東の各地をまわった。「歴史的な環境を整えることが大切だと思っ



氏子総代を務める品川神社

ている」と話す。「それを回って会社の流れのために現在、どんな投資をして拠点を増やしている。ウチは関東圏で強みを発揮したい。危険物を扱う、大手がつ

「運賃水準が低いから人が来なくなった。運賃制度を壊したのは国交省そのものだ。そうした議論、つまり『運賃規制緩和否定論』がいままも、ト協の会合では聞かれる。トラック輸送産業を観察し続けている立場からいえば、「全くだ」と思う気持ちが半面。ただ、例に示した引越見積もりのような状況が業界大手から作り出されていると耳にしては、もろ手を挙げているわけにもいかない。なぜ

もっと原価計算公表を

なら、「なくなった運賃制度を利用して、ぼろもつけしているくせに」という消費者の声を聞かずとも理解できるからだ。「社会との共生」は、ト協が掲げる重要なスローガンの一つだ。しかし、引越見積もりのような状況を放置しては、そのスローガンに鼻が白む思いである。片方の企業物流も同様だ。荷主との契約ベースとなる改定約款で新設された「運

態が続く。改定約款施行企業物流では、待機時間や積み料金が設定さ

「小野家はもともとケチ」だった。前を進みたい」

（小西吉